

グランドゼロ

GROUND
ZERO JCF

94 冬

2012年12月26日 発行

- 福島支援
放射能とどう向き合って暮らすか



“はい”と“いいえ”

ブラート・オクジャワ（1924～1979）

訳・神谷さだ子

“はい”と“いいえ”がある

冗談ではなく

数世紀にわたって、戦いは続いている

時間だけが審判者だ

その審判さえも

早くはない

数千の彗星が輝いた

その光は

遠く消えた

ただ時間だけが“はい”と“いいえ”を

ふさわしい時に発する

若者らしい夢はすばらしい

リーダーになることを夢想する、

ただど時間は“いいえ”という

そしておまえは

銅鑼を鳴らす人になる

希望はなく

険しい道

過去のすべてを消すことはできない……

ただど時間は“はい”という

そしておまえは

王のように得意になる

敗北があり

勝利があり

あなた達は一度ならず経験した

ただ時間だけ“はい”と“いいえ”

ふさわしい時に発する

あたたかな 支援
心から 感謝です

忙しい一年が、終わるうしろにいま、
被災地に通いつづけました。

千回千回にも
もうにも

支援に行きました。

足の骨折や、
ヘルニアに悩ま
れた時から、

走りつづけました。

ちょっとだけですが、個人的には

ハロハロです。

でも、でも

被災地の片々のことを考えると
そんなことは言えません。

新しい年が始まります。

福島の子供たちの

命と健康と心を
守ること。

千歳にフガイリの子供たちを
支えること

平気の痛みの子供たちを守り
劣化の弾が
使用される世界を
つくること。

2013年も

全力で頑張ります。

おれ、おれ、お願いはす。

誰かの方か、よい年で
ありますように！

2013年 新春 JCF 理事長

高橋 寛 (印) 寛 (印)

グランドゼロ 94 冬

GROUND
ZERO JCF

目次

福島支援 放射能と どう向き合って暮らすか	生活に組み込まれた放射能と向き合いながら	＜横内香苗＞	8
	積算線量計を持つということ	＜野口時子＞	14
	ホットスポットから自主避難して		17
	リカ医師信州大学留学の成果	＜神谷さだ子＞	20
	Team めとば活動報告		
	笑顔の給食プロジェクト	＜高橋栄也＞	22
	出前講座プロジェクト	＜川島徳巳＞	24
	長野県市民放射能測定所連絡会に参加して	＜佐藤 直＞	26
	新メンバー紹介		28
	食品放射能測定結果（2012年10月～12月）		30
連載 & お知らせ	連載随筆「常世の息吹」	＜宮尾 彰＞	36
	モスクワ便り		38
	ベラルーシの食卓		40
	「福島原発被災者支援募金」のお願い		41
	振替用紙のメッセージから		42
	ありがとうございました！		44
	Здравствуйте！（事務局広場）		46
	カルチャーレビュー		48
インフォメーション		50	

福島支援

放射能とどう向き合って暮らすか



福島訪問時、安全・安心・アクション in 郡山事務局とミーティングする神谷事務局長（左端）

事故から1年10カ月経ち、それぞれが身近にできることを実行し始めた。
解決されていない問題は山積しているが、共に力を合わせて、乗り越えていこう！

生活に組み込まれた 放射能と向き合いながら

横内香苗（事務局）



南相馬で左から事務局横内、神谷、谷田部さん

安全・安心・アクションin郡山

震災から1年半が過ぎた10月30日から3日間にわたり、事務局長と共に郡山、南相馬を訪問しました。

震災後、JCFが郡山を訪問したのは今回で2回目。南相馬へは約半年ぶりですが、訪問は20回を超えました。

昨年南相馬市を中心に行ったガラスバッジ（積算線量計）プロジェクトは現在も継続中です。状況が変化する中、郡山のお母さんグループ「安全・安心・アクションin郡山」にもバッジ貸与を提案し、9月から装着を始めました。このグループはお母さん達が独自に立ち上げ、事務局内に食品測定器を導入し測定しています。

長い付き合いになるであろう放射能と向き合いながら暮らしてゆくため、運営を継続してゆくために、手作りのしおりを作るなどの工夫を凝らしていました。また地方から送られてくる支



支援物資が集まる相馬の倉庫

援の野菜を無料で分け合うのではなく、購入することにより運営資金の一部を捻出していました。

現地を訪問すると季節の野菜が当たり前前に食べられる状況のありがたさをあらためて感じます。

ガラスバッジを付けることにより、外部被曝量を測定することができま

す。測定結果の数値を比べて安心するものではありませんが、環境により変わることは知っておく必要があります。数字を見たお母さんたちは、被曝の量が一人一人違うことを確認し実感していました。

住む所、食べるもの等、毎日が選択の連続です。お母さんたちはご自身も大変な中、「子どもたちを守るために保養をさせたい」と希望していました。「友達も一緒に部活単位で保養できたら理想んだけど……」という声に込めるため、JCFは今後、検診と組み合わせた保養を考えしていきます。郡山の中高生は合唱が得意！ JCFのある松本も郡山も共に「栗都」の街として音楽が盛んな土地です。郡山と松本が音楽で繋がってゆくことをイメージすると希望が持てます。既に貸与しているガイガーカウンターも活用されている様子でした。放射線量を常に気にする生活は大変です。気になる時に手

元で確認できることは大事です。必要であれば引き続き使っていたきたいと思えます。

きつずサポート「かのん」

郡山の訪問を終え、ボランティアスタッフの谷田部さんの車で南相馬に向かい、ガイガーカウンターを貸与している南相馬市原町区にある「きつずサポート『かのん』」を訪問しました。「かのん」は震災後にできた施設で、障害のあるお子さんの療育、相談支援を行っています。放課後や長期休暇もお子



きつずサポート「かのん」の新妻さん(左)と谷田部さん

さんを預ける事ができるのでとても必要とされる施設です。ガイガーカウンターをいつも玄関先に置き、送り迎えに来る親御さんが見て行くそうです。

訪問したその日も、ガイガーカウンターを見た代表の新妻さんが「今日は線量がちよつと高いわね」と気にかけていました。ガラスバッジ装着もお勧めしたところ、スタッフが装着したいということので7個のバッジをお預けしました。代表の新妻さんに「大変な中、よく施設を起ち上げましたね」と事務局長が言うと、「みんなが大変な中だったから大変と思わなかったの」とにっこり笑っていました。

その日は、南相馬の病院に勤務する技師さんの話を聞くこともできました。事故当時、南相馬市内のほとんどの医師が検死に関わったそうです。お話しくださった医師ご自身もお父様を津波によって亡くされたそうです。一年半前の出来事も昨日の事のように話

されました。

現地に来てお話を伺う事で日々変化している様子を聞き、状況によって変化する要望等を聞くことができるので訪問はともて大事です。現地の皆さんは、特に子どもの健康診断の実施を強く希望されています。これは福島県内に限らず避難している方も同じです。

「甲状腺検査も含め、健康診断を定期的に学校で行って欲しい。健康の問題は将来の事につながるから」というのが現在のお母さん達の切望です。

津波被害にあった地区での後片付けや行方不明の方の捜索は今でも行われています。汚染物質の行き場や家庭ごみの行き場も決まっていない状況です。

外で思いっきり遊びたい！

継続して訪問すると、市民がそれぞれアイデアを出して街が変わってゆく

様子が手にとって見えます。グラウンドゼロ91号でも紹介した南相馬市民で立ち上げた「みんな共和国」で願ったところがどんどん実現しています。

3月に訪問した際行われた「南相馬ダイアログ」では、希望や質問を紙で作った葉っぱに書き、大きな「思いの木」に仕上げました。「お外であそびたい」「じいちゃんちのすいかを食べたい」「いいですか？」……などと素直な子どもの気持ちや、葉っぱに書かれました。今回の訪問では思いの木が少しずつ実現していました。

除染された公園にアスレチックのような運動器具が設置されました。利用するのはほとんど大人のようにですがどの器具もベアで行うようになってるので若いカップルやお年寄りが一緒に運動しているのです。ほとんど外で運動することができなかつたのですが、場を作ることで楽しみながら運動ができるように工夫されています。

した。3月の訪問時には子ども達がダンボールで街を作っていたのです。それが実際に実現しているようで嬉しかったです。子どもたちが外で自由に遊ぶにはまだ時間がかかるかもしれませんが。しかし確実に良い方向に向かっていると感じました。

福島の問題は日本全体の縮図

市民で立ち上げた除染研究所は、水耕栽培での野菜作りに挑戦し実現に向けて進んでいました。「ドイツのシェーナウの村のように自然エネルギーを取り入れながら自立しよう」と話してくださる皆さんの表情は生き生きとしていました。除染研究所の箱崎さんは、以前お会いした時も「今まで全国が抱えていた課題解決の実験をするには、今の南相馬は最適の場所」と言われましたが、今回も「バーチャルではなく南相馬はデータがあるので他には

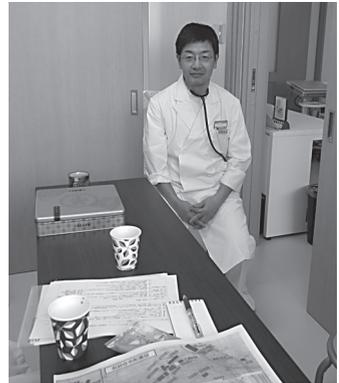
できないモデルになる。東電に向き合うのでなくここに住んでいる人に向き合う」「この先の日本全体が体験することを南相馬が先に体験した」と、聞いている私たちも元気になるお話しをしてくださいました。

インターネットで「南相馬ダイアログ」と検索すると毎月のミーティングの様子を動画で見ることができ、自分たちの手でまちづくりを実現する様子をリアルタイムで知ることができるそうです。

そして行政と仲良く！ともおっしゃっていました。ここまで来るにはご苦労の連続だったと思いますし、それは今でも続いています。でも気持ちが前向きになると実現も早いと思えました。

まだまだ課題はあります。仮設住宅に作られた「絆診療所」の遠藤医師は深刻な問題をお話してくださいました。

まず仮設住宅が狭すぎるというので



絆診療所の遠藤医師

少しずつ復興住宅ができていきます。体を動かす事が大変でポータブルトイレに座りっぱなしのお年寄りもいたそうです。往診に行こうとすると、狭くて足の踏み場もない家に医師に来ていただくことを遠慮する家もあるというのです。以前から顔見知りの医師に診ていただきたいと、わざわざ遠くまで半日かけて通う方もいるようです。遠藤医師は、まずは顔を知ってもらわなければ……と、勉強会を開いた「今度は豚汁会でもやろうかな」とアイデアがいつぱいのようでした。

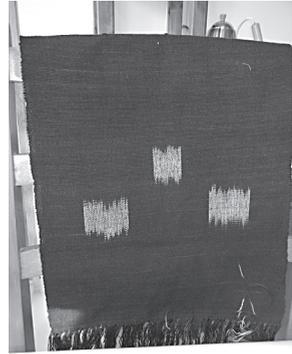
遠藤医師が直面されている問題から日本全体の問題が見えてくると思いました。お年寄りなど弱い立場の方の問題を早く改善しなければなりません。福島の問題ではなく自分の事として。

150年先を見越して今を決定

「作物を作ることができなくなった土地をほっておくのは悔しいから紅花やむらさき草を作ったの」

と話してくださった南相馬の女性はその草で染めた布を嬉しそうに見せてくださいました。繁殖力が強いセイタカアワダチソウが街のあちらこちらではびこっていました。それを利用して染色がしたい、麻も育てたい！という人もいました。

車で通過した飯館村は高線量のため田畑に作付けができません。昨年の秋は草が生い茂っていました。今年も草が刈られています。村内を走る車が



草木染めした織物

ら万が一タバコの火が燃え広がったら、たちまち山まで燃え広がってしまうので、除草しているのだそうです。また今まで作付した田畑を草だらけにするわけにはいかないという方もいるそうです。

インディアンには「7代先を考えると木を切る」という言い伝えがあります。1978年に環境保護のメッセージを伝えるため、鉄道・車・飛行機など乗り物を使わずワシントンDCからサンフランシスコまで毎日160キロをランナー、ウォーカーとリレーした「ザ・ロングストウォーク」を主催したイン



飯館村で刈り取った草は袋詰めされて並べられていた（中央の黒い袋）

ディアンのデニス・バンクス氏が11月、南相馬を訪問しました。

日本でも「セイクレッドラン」（聖なる走り）として80年代、90年代、原発を回りながらデニス・バンクス氏と一緒にメッセンジャーが福島原発を通過しました。

「その時息子が炊き出しを手伝った

のよ」と話してくださいったのは南相馬の高橋さん。息子さんは当時高橋校生で、セイクレッドランを手伝ったことが彼のその後の進路の選択に大きく影響したそうです。一度はメディア関係に就職したものの日本の未来に希望が持てず、今は海外で生活しているとか……。今回は小高地区の同慶寺に来るためお母さんも楽しみにされていました。日本人もインディアンも共に米を食べる種族です。生命の源である大地と空気を汚してしまった日本は果たして7代先を考えていたでしょうか？

「どうして福島に行くの？」と聞くお孫さんに対してデニスさんは「親戚に会いに行くんだよ」と答えたそうです。

「今日、明日のことではなく150年先を見越して今を決定する」というインディアンの教えを今に伝えるデニスさん、今回はどんなメッセージを日本に伝えてくださったのでしょうか？

放射能と付き合っつてゆく

ある冊子に記載してあった言葉が目
に留まりました。ドイツの医師シュテ

ルナーは「放射能は時間を殺す」―時
間を失うと人間は不安になる。不安に
なると腎臓や耳に影響し大事なことが
聞き取れなくなる。自分に湧いてきた
感情や疑問も放棄する……と。不安に
なっても放棄しても問題は解決の方向
に向かいません。体と心を整え放射能
と折り合いをつけて付き合っつてゆく方
法もあるはずです。

放射能の影響を心配するお母さんた
ちはいろんな情報を得て工夫していま
す。発酵食の酵素が放射能に対する抵
抗力に影響するという説を知ると「大
豆を作っつて味噌作りをしよう!」など
と自分達でできそうな企画で盛り上が
つていきます。

お天気と同じように放射能を気にし

なければならぬ日常です。

南相馬や郡山の人々は皆前を向いて
生活しています。支援はお金だけでな
く、知ること、気にかけることも大事
です。

これからもグラントゼロを通して皆
様にできるだけ現地のことをお伝えし
ていきたいと思ひます。

積算線量計を持つということ

野口 時子（安全・安心・アクションin郡山）

私達の活動

で呼びかけたところ70名を超える多くの方が集まりました。

3a郡山（安全・安心・アクションin郡山）とは

安全（annzen）

安心（annshinn）

アクション（action）

3つのaで、スリーエー郡山です。

原発事故後の2011年6月20日に、小中高生の子を持つ母親たちが「放射能は本当に大丈夫なのか？」「我が子を守るにはどうしたらいいのか？」等不安を吐露しあった「お茶飲み会」からスタートしました。

「同じ思いを抱える母親はもつといるはず……」と『座談会』という形式

その後、毎月第2、4火曜日の午前中に『座談会』を定期開催しております。

そこで集まった意見を郡山市政に「要望書」「請願書」として提出していきます。なかなか思うように私たちの意見が通ることはないのですが、めげるわけにはいきません。（子ども達を放射線からの脅威から守る!!）このことを諦めるわけにはいけません。

『お野菜マルシェ』は毎週火曜日の11時〜野菜のなくなるまで。「地元産・近県産野菜は我が子には食べさせたくない」との思いの母親達のために農民生産のご支援を頂きながら仕入れ販売をしています。



3a 郡山事務所でスタッフのお母さんと群馬大・早川由起夫教授（右から2人目）

いつでもみなさんが気軽に、愚痴が言えたり、保養の情報が得られたり、ちよつとほつこりできたり、少々大袈裟ですが駆込み寺だったり……、そんな場所になりたいと思っております。

しかし、そんな場所も皆様のご支援により支えられております。皆様のご支援に深く感謝しながら、日々の活動をして参りたいと思えます。

低線量被ばく地帯で暮らす

私たちが今住んでいる郡山市は原発事故からおよそ半年が過ぎた2011年10月から中学生以下の希望する子どもたちに『線量計』が配布になりました。

事故後の高線量と思われる時期は過ぎ、夏休みも終わりバタバタと事故前の郡山市に戻されつつある頃でした。毎日の行動を記録すること、毎日忘れ

ずに持ち歩くこと、水に濡らさないこと、首にひつかからない様に注意すること……。登校前の朝のひと騒動です。そして、驚くべき結果が2カ月後に届きました。手元に届いた測定結果には「福島第一原子力発電所事故による被ばく量 0.08 ミリシーベルト」です。

1カ月装着していたのにこれだけ？ 本当にこれだけなの？ よく見ると『測定対象期間の自然放射線被ばく相当量 0.06 ミリシーベルトを除いた数値』と書かれていました。

その結果を元に我が子の年間被ばく量を計算してみました。何度計算してみてもその数値は1ミリシーベルト未満になります。しかしこれが安心材料になるはずありません。

私たちは学習したのです。震災後、原発事故後の国の対応、県の対応、市の対応、あらゆる行政の対応がどれだけ親たちを不安にさせたか……。

「ただちに健康被害はありません」
「年間1000ミリシーベルトを浴びても心配はありません」
「外で遊べないストレスが子ども達の成長の妨げになる、もう外は大丈夫です。外で活動しましょう」。

さらなる被ばくから我が子を守りたいと思う親は声をあげようと思すが



みんなで手作りしている3aのしおり

その行為は孤立を深め、守るべき子どもを孤立させてしまいます。

孤立↓いじめ……。子どもの今の心の健康か？ 子どもの未来のからだの健康か？ 親たちは悩み続けています。

自分たちのとった行動が我が子に最良、最善であって欲しいと願います。こころもからだも健全に、そしてその先の世代までも健康に暮らして欲しいと願います。

「あなた達の未来はとても輝いているよ」「あなた達の未来は美しいよ」とバトンを渡したいと思うのです。

そしてその答えを大人になった子ども達が出してくれることでしょう。

その答えに後悔しないように、今、親として、大人としてやれることをやるだけ一生懸命取り組んで行こうと思います。

JCFのガラスバッジ（積算線量計）プロジェクトや線量計貸し出しプロジェクト

エクトにも参加して、放射能の見える化をしていきます。

低線量被ばく地帯で暮らすという、今まで誰も経験したことのないこの難関に諦めることなく家族を守り続けたと思います。

ホットスポットから自主避難して

—あるお母さんの述懐—

私たち親子は今年3月に東京の下町から、ここ松本市に越してきた。自主避難というやつだ。

移住を決めたのは子どもの体調もさることながら、幼稚園の放射能対策をめぐってのゴタゴタから生じた人間関係に、私自身磨り減ってしまったことが大きい。自戒と反省をこめて、それまでのいきさつと、私の思いを綴っていきたい。

私の子どもを通っていた幼稚園は、今どき珍しい裸足で草履の幼稚園で、自前の田んぼもあり、都心とは思えない野趣あふれる自然保育が実施されていた。子どもたちも土の園庭で気の済むまで泥遊びをしたり、虫を捕まえたりと、毎日盛大に制服を汚して帰ってくる。園ではお母さん達のサークル活動も盛んで、絵本の読み聞かせや人形劇、染物や味噌作り、梅仕事など様々な経験をさせてもらった。何よりも楽しかったのはそれらを通じて母親同士も仲良くなり、皆で持ち寄りパーティーをしたり、子どもを預かって泊まらせたり等、昔ながらの大人皆で子どもを見守り助け

合う育児ができたことだ。これらの経験は何よりの宝となつて、私の胸に残っている。

そんなのどかな幼稚園生活が少しずつ失われていったのは、あの原発事故が起こってから。

母親の「子どもを守りたい。現状を何とかしたい」との思いは一緒だったのだが、少しずつ何かガシガシ始め、結果バラバラと崩れていってしまったのだ。

いったいどうしてそうなってしまったのか。

ひとつには放射能の影響に対する子どもの個体差がある。今ほどに低線量被曝による免疫力の低下が取りざたされていなかつたために、明らかに放射能由来とされる病気（Ⅱ甲状腺がん）でない限り、体調不良（鼻血、しょっちゅう高熱を出す、病気の治りが遅く治つてもすぐに病気を併発する）程度では、どんなに訴えても満足のいく放射能対策には結びつかなかつたのだ。

またここまでなら大丈夫と言いつける「しきい値」のない放射能に対して、安心・安全を求めていくとキリがないことになり、対策を講じることが長期に渡るにつれ、各家庭の経済格差や家庭環境の差が浮き彫りになってしまった。保養と称して海外に出かけられる家、西日本の素材や安全な水を取り寄せ続けられる家、思い切つて避難できる

家、それがかなわない家等々である。

何をどこまで追い求めるかは、そのまま格差の問題として露骨に浮かび上がってきてしまい、それらがある種「踏み絵」となつて、親同士が主義・主張ごとに細かくセクト化してしまつたのだ。

放射能という目に見えないものに対して不安が募るがゆえに、お互いの立ち位置（安全派か危険派か）を探り合い、自分と同じ意見を見つけてほつとし、考え方が違えば関係を切っていく。

いつしか放射能の話題は対立を表面化させるものとして、お母さん達の口にならなくなつていった。このままではいけない。何とかもう一度仲良しの園に戻して、皆で力を集結していかななくてはいけないと、一人もがいてみたものの力及ばす……。

結局自主避難することになつたのは先に書いた通りだ。

松本に来てから、子どもは小学校に通い始め、顔色もみるみる良くなつてきた。今まで住んでいた所がホットスボットと呼ばれる都心の高線量地域だったので、松本に越してからは、空気・水・食べ物の心配がなく、ごく普通に暮らせることが、子どもにも私自身にもプラスに働いたからだろう。

そして地域の人に支えられながら暮らしていく中で、東京で経験したことを繰り返したくないと思い、考えたことがいくつつかある。

ひとつには放射能対策に最初から完璧を求め過ぎないということ。私達の幼稚園は事故後の対応は近隣の園のなかで一番早かつた。3・11後、春休みまで休園となり、あけて新学期に入つてからは、先輩ママを中心に「子どもを守る会」が作られ、区への陳情のための署名活動も始まつた。自主的な放射能勉強会や園との話し合いの場も幾度となく設けられ、先生方は早朝出勤をして床を雑巾がけして下さつたり、砂場の砂の入れ替えや、毎日の空間線量の測定もしていたのだ。

しかし除染しても雨が降ればすぐ元通りになり、さらには水分が蒸発することで放射性物質も濃縮していく。それらをすべて取り除くには、屋根のふき替え・雨どいの付け替えなどを始め、手間ばかりなく、金銭面でもかなりの負担になる。

また食べ物の内部被曝を回避するために料理に使う食材をゼロベクレルに近づけて……と切望しても、測定器の性能の問題、実際に計測する手間、その費用等々、現実に自主測定レベルでは時間的にも費用的にもそこまではおぼつかないのだ。

私達は理想を追い求めるあまり、現場で何とか頑張つて下さっている園長先生や諸先生方を結果的に追いつめることになってしまった。要望を突きつけるだけでなく、現場の負担を減らし、なおかつ子どもを守るにはどうしていけばいいのか。

理想と現実のギャップをきちんと把握した上で、足りないところは共に手を携え、補っていくという姿勢であれば、ここまで園がバラバラにならなかつたのではと悔やまれてならない。

現在園では全く元の通りの自然保育が続いていると聞きますが、これも対応を急ぎ過ぎた反動なのかもしれない。

そして二つ目は立場や世代を超えて、それぞれが自分の問題として放射能のことを捉えられるよう、当事者の裾野を広げていかななくてはならないということ。

皆子どもを守りたいという思いは同じはずだ。ただ、高線量地域、あるいはそれに準じた地域で日々放射能に対する策を講じながら生きてきた私たちと、松本の方とでは、現時点で危機意識に差があるのは致し方ないと思う。

ただ、ここで自分達と同じ危機意識を持つ者だけで現状を憂いても、地域全体を巻き込んだ大きな流れにはつながらない。正論だけでは人は動かないのだ。

学校や地域社会において、一人ひとりが自発的に放射能

問題を共有していくにはどうすればいいのか。

幸いにも松本では地区ごとの交流が盛んで、地域の公民館を中心として様々な行事もあり、祖父母世代や子ども達、地域を取りまとめる役員の方々などと接する機会も多い。学校行事にそれら地域の方々に参加下さる場面もいっぱいある。あくまで一例だが、そのような場で免疫力を高めるとされる発酵食品作りを地元の方に教わりつつ、身体つくりを通じて地域の方を対象とした簡易な放射能対策講座などはできないだろうか。

そんな悠長なことをやっている場合ではないとお叱りもあるだろう。だが、あまりにも先を急ぎ過ぎ、完璧を求め過ぎたあまり、私達の幼稚園は母達の分裂を招いてしまった。そうなつては元も子もない。

自主避難をしてきたとある一主婦の懺悔ではあるが、苦い経験を無駄にしないためにも、この松本の地で何かできることはないか、日々考えている。

(寄稿して下さった方のご希望でお名前は伏せさせていただきます)

リカ医師 信州大学留学の成果

神谷さだ子（事務局長）



12月3日、JIMNET（日本イラク医療支援ネットワーク）が行った短期研修にイラク・クルド自治区からナカリー病院管理者のオマルさん、ペイマン医師、マハナス看護師が来日された。その歓迎会で、鎌田理事長の挨拶をアラビア語に通訳したのは、アルカザイル・リカ医師だった。3年10ヶ月前に来日以来、信州大学医学部小児科大学院の博士課程で、研究三昧の日々を送っている。10月に、博士論文が認められ、医学博士号を授与された。

そして、2本目の論文を仕上げ、年明けには、3本目も仕上がる見込み、とみごとな成果をあげている。

博士論文は、イラクの急性リンパ性白血病の子ども達の遺伝子解析についての研究だった。日本では、普通に行われる遺伝子解析診断を、濾紙のようなFTAカードにわずかな血液を浸みこませた検体をイラクの5病院から

送ってもらい、解析を行った。日本では生血で行うが、FTAカードでもかなり精度高く解析できることが証明され、イラクの急性リンパ性白血病の特徴がわかった。

2本目の論文では、小児急性骨髄性白血病患者の遺伝子解析に取り組んだ。イラクではフローサイトメトリーが使われていないため、白血病の分類ができない。今回リカ医師は、バグダードを中心にイラクから届いた134の検体を解析した。その結果、予後のいい子ども達が3割いることがわかった。アトラという薬でも効果がでる。結果は、必ずイラクにフィードバックしており、子ども達にとつてとても有益な分析になっている。また、イラクで共に働いた医師に結果を知らせながら治療方針を立てることで、イラク医師たちの治療へのモチベーションを高めてもいるのだ。

貧しくて交通費が出せない、テロの危険性など、医療以前の問題も山積している中で、子ども達の両親に、予後がいいので治療を続けましょう、と勧めることができる。イラクではできない移植治療を、隣国のヨルダンやイランに受けに行くことを家族で相談する材料にもなるそうだ。

予後がいいという判断は、DNAの特定の番号の転座に現われる。治療に反応することから、薬品による支持療法をきちんとすれば寛解率を上げていく事ができる。

リカ医師と共に研究し、指導してくださった小児科の小池医師、坂下医師も、リカ医師のまじめさとイラク・ヨルダンの病院とすべて連携してしまう行動力に目を見張っていた。リカ医師とイラクの小児がん・白血病を専門とする医師達との信頼関係は絶大だ。小池医師からの質問にも、これまで発表

されている論文に徹底的にあたり、自分で自信を持った結果を発表している。イラクの白血病の子ども達の遺伝子解析は、単なる研究ではなく、子ども達の役に立つ。信州大学で学び、身につけた知識や技術をイラクの次の世代に伝え、次の世代を育てていってほしい、と小池、坂下医師は期待を寄せ



ている。

リカ医師が日本で得た成果は、白血病診断の細胞染色技術にも明らかに見られる。スライド標本を作る技術が2、3年で格段に上がった。年に1回行われるJIM-NET会議で、FTACカードに一滴の血液を落とす方法と同時に、何度もスライド標本の作成方法について指導したという。

リカ医師は、年明けの2013年3月に、帰国しなければならぬ。しかし、不安定な政状から、帰国後の職場はいまだに未定だ。バグダードや4年前にいたモスルでは、クリスチャンであるために、命を狙われる危険性が高いという。かと言って、いくら安全でも、イラク国籍であるリカ医師には、クルド自治区という選択肢はないようだ。

中東に平和がほしい。テロに怯えなくともいい国になってほしい。

Teamめとば

活動報告

☆笑顔の給食プロジェクト

高橋 栄也

・プロジェクト設立の経緯

私たちがTeamめとばとして始動し、測定にも慣れてきた頃、事務局よりチームとしてプロジェクトを遂行してみたらと提案がありました。早速チーム内でミーティングをした結果、私たちが放射能濃度測定を通じて行いたいことは大まかに2つになりました。1つ目はJCFの理念にもある通り「子どもの笑顔を守る」ということです。3・11の福島第一原発の事故を経て、私たち日本人は今後数十年に渡って放射線問題と付き合っつてゆくことになりました。

子どもは日々細胞分裂を繰り返しながら成長するため、放射線に対する感

受性が大人に比べて高いことが知られています。本来起きてはならない放射線事故に確かなマニュアルは存在せず、今後子どもの身体にどのような影響があるかは誰にもわかりません。未来を作っていく子どもの笑顔を守ることは現代を生きる者の責務であり、運良く柔軟に放射線濃度測定ができる私たちにできることではないかと考えたためです。

2つ目は「放射線の知識を地域の皆さんと養っていきたい」ということです。

測定を始めて私たちが共通して感じたことは放射線に対する知識の無さでした。全員が理学部に所属し、多くのメンバーが現役で物理を学んでいるにもかかわらず日々報道される放射線に関する単語や通説は私たちにとても新鮮なものばかりでした。

しかし、メディアではその様な一般的でない知識を使って放射線の危険度

を大いに報道する一方で、その被害が福島周辺の地域に局所的に発生しているかのように報道していました。

そこで、測定ができる程度の知識をつけた私たちが掲げたテーマは『過度に恐れることなく、また過度に無関心にならないようにする』でした。

また、また放射線に関して素人である私たちと地域のみなさんであれば、メディアとは違うスタイルでより効果的に放射線問題との距離を考えてゆくことができるのではないかと感じたためです。

以上の2つの目標を達成するために始動したプロジェクトが「笑顔の給食プロジェクト」です。

・行政の理解を得るまで

ミーティングを重ね、本プロジェクトの具体的な内容を決定しました。それは松本市の学校給食で使われている食材と同じ食材の放射線濃度を前日に測定し子どもたちの被曝を防ぐことも

に、その結果を地域のみなさんとの知識を養うツールとして使用するというものです。

しかし、実際に学校給食で使用されている食材を同じ経路で入手し、放射線濃度測定を行うというプロセスを、民間の団体が行うというのは恐らく全国的にも初めての試みでした。

そのため、データの所在、卸業者との連絡、栄養士さんとの献立の確認など、どれをとっても初めての作業であり、仕方のないことではありますが当初行政の腰はとても重く、なかなか話が進んでいかないような状況にありました。

そこで私たちは数回に渡って行政とのミーティングを重ね、関係各所への説明を地道に行うことよって問題をひととつずつ解消していくことに成功し、最終的には行政の理解を得ることができました。

今では市の公式ホームページに私た

ちの測定結果のリンクを貼っていただける様な関係性を作ることができています。この経験を通じて他者に放射線についての説明をすることの難しさ、またこの問題がやはり今後組織的に対応するべきものであり、真剣に取り組まなくてはならないことであることを再認識することができました。

・進捗状況

測定の結果、現段階（2012年7月～12月まで）で給食に使われている食品を60品目測定することができました。測定結果の詳しい数値はホームページを参照してください。いずれの食品も放射線は不検出です。

また目標にも提示したようにこのデータを用いて地域のお母さん達との勉強会や意見交換会も行っています。お母さん達の意見はどの会場でも的確で鋭く、知識も豊富でいつも私たちのほうが勉強させられることはかりです。勉強会等でのご意見は、さっそく行政



お母さんとの勉強会で測定方法の説明をする高橋さん

このミーティングに反映し、プロジェクトの改善につなげていきたいと考えています。

チーム一同、みなさんの食の安全を守る一助となることを願って活動を続けていきたいと思っています。ご意見等ありましたらチームまでご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

☆出前講座プロジェクト

川島 徳巳

Teamめとばが発足し、早くも一年が経とうとしています。私はこの一年間、放射能に関する知識の無い人やこれからの日本を担う中学生・高校生に、基本的な放射能に関する知識や、測定結果等の見方を伝えていくことをコンセプトとした「出前講座プロジェクト」の責任者として活動を行なってきました。活動を通じて様々な人に出会い、多くの事を学ばせていただきました。

飯田高校での出前講座

私たちが「出前講座プロジェクト」として、最初に行った仕事が長野県立飯田高校での出前講座でした。そもそもこの講座は、私たちが訪れる前に、



飯田高校出前講座 川島さん（中央）

飯田高校の先生と生徒さんたちは授業の中で何度も放射線について学んでいて、生徒さんたちに基本的な知識が備わっている状態での講座でした。

また、我々も先生と打ち合わせを何度か行い、キャリア教育的要素を含む「共に考える」をテーマに、発表スライドを完成させることができました。本番はとても緊張しましたが、無事終

えることができました。

講座の最後に「食品放射能20ベクレル/kgのご飯を食べ続けるのはどうなのか？」といった、具体的な事例を用いて、生徒さんたちに答えの出なさそうな質問をぶつけました。すると生徒さんたちから、「福島第一原発事故の以前は、ご飯には何ベクレルの放射性物質が含まれていたのか？」「体内に取り込まれた放射性物質は、どのくらいの期間で排出されるのか？」といった様々な質問をされました。

私は予想をはるかに超えたレベルの高い質問に驚かされました。このような質問をするには、もちろん基本的な知識が必要です。しかしそれ以上に、放射線について学ぼう・考えようとしなければ、理解を深めることができないはずです。この講座で私は、飯田高校の生徒さんたちの関心・意欲に、頼もしさを感じました。

エクセラン高校での出前講座

松本市のエクセラン高校では、放射線に関する調べ学習が行われていて、定期的に報告会が行われています。生徒さんたちは、エクセラン高校生に放射線に関するアンケートを取ったり、放射線治療など、福島第一原発事故以外の放射線に関する事について調べたりしています。

また、調べたことについて皆で話し合いもしていて、放射線についてメリットやデメリットを考えることによりその理解を深めていました。

私たちは、その話し合いの会に「出前講座プロジェクト」の一環として、何度かTeamめとばとしての活動報告をさせていただきました。

私は、エクセラン高校の生徒さんたちの、長期間かけて新聞やインターネットで記事を探し、学習テーマへの理

解を深めていく姿に、飯田高校の生徒たちと同様に頼もしさを感じています。

また、エクセラン高校では調べ学習を主体的に行なってきた3年生から、1、2年生へ情報共有が行われていて、引き続きこういった活動を続けていく様子が見られます。

我々も、Teamめとばを継続していかなければならないと、エクセラン高校の活動に触発されています。

大町の給食を考える会での勉強会

大町の給食を考える会（長野県）の働きかけにより、最近大町市でも放射能測定を開始しました。

11月10日、その準備のため我々は講座で、測定に関することを主に紹介しました。その後、お互いに情報交換をしました。

我々は、最近Teamめとばで始動

した「給食プロジェクト」のため、実際に給食を食べている子どもを持つ親御さんたちのニーズを聞かせていただきました。

またそれ以外にも、検出限界のことなど普段の測定の中で抱えている疑問や悩みを、お互いに話し合うことができ、とても勉強になりました。今後、大町の給食を考える会の方々とこういった情報交換をしていけたらと思います。

この「出前講座プロジェクト」を通じて、本当に様々な事を学ぶことができ、普段の測定にも反映し、有意義な活動にすることができています。

今後、Teamめとばがこういった活動を続けていくため、プロジェクトの中で出会った様々な人達との関係を大切にしていける事、後輩につなげていく事に取り組んでいきたいと思えます。

☆長野県市民放射能測定所連絡会 に参加して

佐藤 直

東日本大震災にともなう福島第一原発事故のあと、日本全国ともいえる広い範囲にセシウムを代表とした放射性物質が降り注ぎました。農作物などを介して放射能を体内に取り込んでしまう内部被曝の問題は、自らと子どもたちの将来の健康のため、ただちに引き合わねばならない問題となりました。本質的に除染が難しい放射能は、無くす努力よりも、体内に取り込まないために食品の汚染をチェックする機関が必要です。

事故から間もなく、国や地方自治体の対応とならんで、もしくは先駆けで、福島・関東を中心に市民が運営する放射能測定所がいくつも開設されました。2012年冬現在、全国で百力

所近くもの市民測定所が運営されています。

長野県には僕達、松本の「JCF・Teamめとば」の他、塩尻市の「信州放射能ラボ(アイメジャー株式会社)」、

小県郡の「IRIS(イリス)放射能検査サービス」、長野市の「長野市民測定所」、軽井沢の「RDAN佐久・伊那谷市民ネットワーク」と六つもの市民測定所が精力的に稼働しています。

福島、宮城、関東圏に測定所のほとんどが集中する中、事故中心地からこれだけ離れた一つの県で六つの市民測定所があるというのは異例なことです。またアイメジャー株式会社さんやIRISさんなど高い専門性を持って企業として測定室を運営しているのも稀有な例です。

これらの測定所が、情報交換やいろいろな面で協力して活動していくために2カ月に一度、定例で連絡会を行

なっています。僕等はまたまた勉強中の身で、深く広い知識を持つて様々な活動をしている他のメンバーの方に教えてもらうことばかりですが、連絡会に参加しています。

11月11日に小県郡のIRISさんで開かれた連絡会議にTeamめとばから佐藤、三輪浩先生、JCF事務局から中澤啓子さんの3人で参加してきました。具体的にはなりませんが、会議の様子をかいつまんで報告したいと思います。

最初の議題は、測定者の安全性についてでした。測定所のスタツフは日々運ばれてくる汚染食品や土壌、測定器の調整用の放射線源と毎日接しています。特に測定スタツフとしてはたらいにいるお母さんから心配の声があるようで、その測定所では、測定によってうける外部被ばく量をきちんと計算して安全な範囲の被ばく量であることを確かめたり、高い放射能濃度の検体用に鉛で囲った遮蔽箱を用意したりと

しつかりとした安全対策をとつていて、これまで自らの被ばくに多少無頓着だった私たちは、感心し、またしつかりしなくてはという思いでした。

安全に対するいくつかの工夫の中でも、「測定容器に詰めるときホコリの舞いやすく高濃度である土壌は、袋のままではなく依頼者の方に測定容器に詰めた状態で送っていただく」ことはすぐに採用できる工夫で、今後そのようにしていこうとチームのなかで話し合いました。

次にTeamめとばの報告として、笑顔の給食プロジェクトの企画から軌道に乗るまでの話をしました。内容は本誌の高橋君の文に譲ります。

また、検出限界を下げたりデータの信頼性を把握したりするために、室温のコントロールや試料の測定容器への詰め方を始めデータの読み方、軽すぎた試料の測り方などいろいろな質問にも答えていただき、具体的なアドバイ

スをお願いしました。

いただいたアドバイスは早くも実際の測定に活かすことができています。例えば測定装置の調整は室温をエアコンなどによってほぼ一定に保てるならばほとんど行わないというアドバイスをもとに、後日Teamめとばも測定装置を断熱材で囲んで恒温室をつくることでスペクトルが格段に安定しました。また、検体の体積が少ない時は正しい測定結果にならないことも教



測定装置を断熱材で囲む「恒温ボックス」を作成する佐藤さん（右）坂本さん

えていただき、我々の測定装置でも試料の量による補正係数を近いうちに実験して算出しようと決定しました。

細かい話は書ききれませんが、他にもよく検出される品目（きのこ等）の話題や、測定装置の原理に踏み入った話を聞きしたり、IRISさんの一度にたくさん試料を測定できる立派な測定装置を見せていただいたりもしました。

僕個人としては初めてこの連絡会に参加させていただき、とても専門的で高度な話がとびかう建設的な会議で、ふだん外の測定室と関わる機会がなかった僕には刺激の多い連絡会でした。みなさんの意識の高さ、知識の広大さに驚きの連続でした。なにより真剣に子どもたちの内部被曝を防ぎたいという強い思いに心を打たれました。今回の連絡会はTeamめとばが幹事なので、今回の連絡会のような勉強の意味でもモチベーションの意味でも実りの多い会議にできればと思っています。

☆新メンバー紹介

倉田 博誉

この度、新しくTeamめとばに加入することになりました。きっかけは研究室の先輩から放射能の測定をやってみないかと誘われ興味をもったからです。僕は大学では物理学を専攻しているので、そのことが少しでも役に立てばと思います。



三輪先生(左)から測定についてアドバイスを受ける倉田さん

JCFのスタッフからの「自己紹介文ではもつと素の自分をさらけ出して欲しい」との御達しにより、僕自身のことを少し書いてみようと思います。

僕はこれといった趣味はあまり無いのですが最近のマイブームは読書です。最近読んだ本は宮部みゆき作の『ケロスファイア』、貴志祐介作の『黒い家』、富樫義博作の『ハンターハンター』31巻です。その他にはキャッチボール、小さな紙で折り鶴を折ることもはまっています。

こんな僕ですがこれからもよろしくおねがいします。

坂本 成章

今年の11月末から研究室の先輩の紹介によりTeamめとばの活動に参加させていただいています。

思い返してみると東日本大震災以降



測定器を定温に保つ恒温ボックス作成でも活躍の坂本さん

は募金活動をし、赤十字を通じて被災地に送った後は何もできていませんでした。今回活動に参加できることになり、責任を感じるとともにやりがいを感じています。

今までは伝えられる情報をただ聞くだけでしたが、これからは放射能の測定業務、プロジェクトを行っていくので伝える側に立ちます。そのため今まで以上に放射能に対する知識を身につけ、正しく伝える努力をしていきたいと思えます。原発事故により関心が一気に高まった放射能に関する活動は解

決の難しい問題も出てくると思いますが。

そういった場面に出会ってもしつかり考え、Teamめとばの一員であることに誇りを持ち、活動していきたいと思えます。

丹羽 音楽

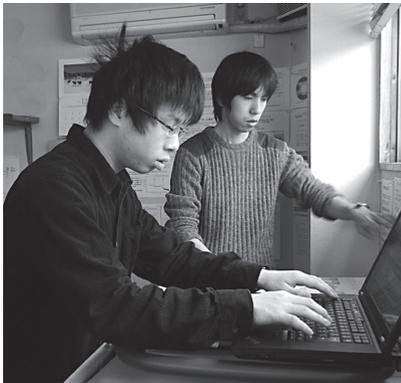
同じ大学の先輩からの紹介をきっかけとして、今回Teamめとばに参加することになりました。

震災による原発事故発生以降、放射能に関する話題が身近に増えました。自分自身も放射能などについての知識をつけたいと思っていましたが、大学の授業で多少勉強した以外はあまりそういう機会がありませんでした。そこに今回、放射能測定に関するお話があり、勉強できるいい機会でもあると思えました。

また実際に参加してみて、放射能の

測定以外の様々な活動もしていることを知り、自分が知識をつけるだけでなく、まわりに発信していくことも大切なことだと感じました。

放射能に関する情報を得ようという方々は大勢いると思うので、そういった方々にTeamめとばの活動を通して少しでも役立てるよう努力していきたいです。まだ活動を始めたばかりですが、これからよろしく願います。



初めての測定で先輩の市瀬さん（右）と一緒に作業する丹羽音楽さん



マリネリ容器に検体を詰めるのにちょっと苦戦の丹羽博康さん

丹羽 博康

同じ大学の研究室の先輩に声をかけていただき、12月からTeamめとばに参加させていただくことになりました。自分は教師になることを目指しているのですが、先輩から出前授業などの話を聞かせてもらったときに自分も一緒に参加して少しでも子ども達の健康について役に立ちたいと思いました。

放射能について勉強するとともに、実際に食品などの放射能の測定をし、そのことについて伝えていくことで、多くの人の不安が解消できるようにしていきたいです。

359	大豆	長野県松本市	10月11日	946	60	ND	7.5	ND	8.7
360	地粉	長野県松本市	10月11日	901	60	ND	7.0	ND	8.0
361	くり	長野県北安曇郡	10月11日	810	60	ND	7.8	ND	8.8
362	シーチキン	静岡県清水区	10月9日	1009	60	ND	6.5	ND	7.3
363	土壌	千葉県佐倉市	10月15日	1164	60	200.9	37.0	129.5	25.4
364	野生キノコ	長野県松本市	10月9日	843	120	5.4	2.0	ND	4.4
365	ハクサイ	長野県松本市	10月10日	701	60	ND	9.0	ND	10.1
366	廃菌床	長野県大田市	11月2日	319	840	ND	5.0	ND	5.7
367	野生キノコ	長野県大田市	10月14日	709	120	14.1	3.5	9.6	5.0
368	ナス	長野県安曇野市	10月12日	646	90	ND	7.6	ND	8.7
369	野生キノコ	長野県伊那市	10月19日	352	900	ND	4.3	ND	4.9
372	キノコ	長野県松本市	10月12日	1088	120	ND	4.2	ND	4.7

食品衛生法上の新基準値(厚生労働省 医薬食品局食品安全部 平成24年4月1日施行)

放射性セシウム	飲料水	10 Bq/kg
	牛乳	50 Bq/kg
	一般食品	100 Bq/kg
	乳児用食品	50 Bq/kg

NDとは検出限界値未満のことです。検出限界とは有為な放射能を検出することのできる下限値です。有為な放射能とは、統計的に見て、バックグラウンド値と明らかに異なる放射能が検出されたと判断できるといふことです。(単位: Bq/kg)放射能濃度と検出限界には誤差があります。*同じNo.のデータが重複しているものは、検査時間などを改めて再検査したデータです。

JCF-Team とば食品等放射能測定結果（測定結果公表可のデータのみ）

2012年10月～12月

NO.	試料名	産地	測定開始		重量 (g)	測定時間 (分)	セシウム137		セシウム134		セシウム134		検出限界
			月日	月日			放射能	誤差(3σ)	放射能	誤差(3σ)	放射能	誤差(3σ)	
340	たい肥	長野県	10月1日		460	900	ND	ND	3.5	ND	ND	4.0	
341	玄米	長野県安曇野市	10月5日		1140	120	ND	ND	4.0	ND	ND	4.6	
342	シメジ	長野県松本市	10月5日		574	120	ND	ND	7.5	ND	ND	8.5	
343	カボチャ	長野県松本市	10月5日		680	60	ND	ND	9.0	ND	ND	10.2	
344	粟	長野県松本市	10月5日		927	60	ND	ND	7.1	ND	ND	8.0	
345	豆乳	九州	10月11日		1018	900	ND	ND	1.6	ND	ND	1.8	
346	レンコン	新潟県	10月2日		752	60	ND	ND	8.3	ND	ND	9.3	
347	土壌	群馬県みどり市	10月2日		1125	60	81.0	15.4	6.3	50.5	10.2	12.0	
348	土壌	群馬県みどり市	10月3日		1321	60	184.5	33.9	6.3	113.1	21.2	12.8	
349	土壌	群馬県みどり市	10月3日		1416	60	156.3	28.8	5.8	95.9	18.0	11.6	
350	土壌		10月4日		511	60	299.7	55.5	11.0	184.8	35.0	20.7	
351	土壌		10月4日		635	60	274.7	50.6	8.8	163.6	30.8	16.4	
352	新米	茨城県坂東市	10月2日		954	60	ND	ND	6.7	ND	ND	7.4	
353	沢庵漬け	国産	10月3日		832	60	ND	ND	7.3	ND	ND	8.3	
354	24年産れんげ米	長野県安曇野市	10月4日		1000	120	ND	ND	4.5	ND	ND	5.1	
356	さつまいも	長野県松本市	10月10日		850	60	ND	ND	7.4	ND	ND	8.5	
357	人参ミックスジュース	国産	10月12日		833	960	ND	ND	1.9	ND	ND	2.1	
358	小豆	北海道	10月11日		1024	60	ND	ND	6.6	ND	ND	7.7	

404	青汁	愛知県	10月26日	443	540	ND		4.9	ND		5.7
405	しょうが	高知県	10月24日	651	60	ND		9.4	ND		10.7
406	ホタテ水煮	国産	10月25日	1051	120	ND		4.3	ND		4.8
407	ネギ	長野県松本市	10月26日	502	130	ND		8.1	ND		9.2
408	わけぎ	長野県安曇野市	10月29日	488	120	ND		8.5	ND		9.6
409	土壌	群馬県前橋市	11月9日	1080	60	138.5	25.7	6.1	88.1	17.6	6.9
413	カジキ	インド洋	11月2日	1114	180	ND		3.4	ND		3.8
414	茶(抽出:2分)	静岡県	11月4日	775	960	4.7	1.1	1.3	2.6	1.6	1.6
415	茶(抽出:5分)	静岡県	11月5日	950	960	3.5	0.8	1.0	2.7	1.3	1.3
416	茶(抽出:10分)	静岡県	11月4日	852	960	5.3	1.1	1.1	4.0	1.7	1.7
417	川水	福島県南相馬市	11月6日	1256	900	ND		1.3	ND		1.5
418	井戸水	福島県南相馬市	11月11日	1154	600	ND		1.8	ND		2.0
419	井戸水	福島県南相馬市	12月7日	1011	900	ND		1.6	ND		1.8
422	井戸水	福島県南相馬市	11月15日	1054	900	ND		1.5	ND		1.7
424	大根	長野県大町市	11月5日	880	60	ND		7.1	ND		8.1
425	ねり梅	国産(製造:和歌山県)	11月6日	491	150	ND		7.6	ND		8.6
426	味噌	国産	11月6日	1425	60	ND		4.8	ND		5.4
427	味噌	長野県大町市	11月7日	488	120	ND		8.7	ND		9.8
428	水	栃木県矢板市	11月11日	1235	540	ND		1.7	ND		1.9
429	漬物の素	山形県	11月16日	1109	120	ND		4.2	ND		4.6
430	土壌	群馬県みどり市	11月14日	1198	60	166.9	30.8	6.4	99.2	18.7	13.0
431	土壌	群馬県みどり市	11月14日	1381	60	118.7	22.1	5.6	72.0	13.8	11.6
432	土壌	群馬県みどり市	11月14日	1198	60	212.8	39.1	6.9	130.7	24.4	13.1
433	土壌	群馬県みどり市	11月14日	676	60	867.1	157.3	12.9	539.9	98.5	20.3
434	土壌	群馬県みどり市	11月15日	733	60	319.7	58.7	8.8	187.3	36.2	11.2

NO.	試料名	産地	測定開始		重量 (g)	測定時間		セシウム 137 放射能	セシウム 137 誤差(3σ)	検出限界	セシウム 137 放射能	セシウム 134 誤差(3σ)	セシウム 134 検出限界
			年月日	(分)		放射能	誤差(3σ)						
377	土壌	長野県松本市	10月16日	120	1143	4.8	1.9	3.2	ND				6.2
378	もずく	沖縄県	10月15日	60	1051	ND		6.1	ND				6.8
379	サイコロチーズ	東京都江東区	10月16日	60	1000	ND		6.3	ND				7.1
380	キノコ	長野県大田市	10月16日	900	1029	3.0	0.7	1.0	ND				1.6
381	さんま	岩手県・宮城県	10月18日	60	1013	ND		6.2	ND				6.9
382	野生キノコ	長野県伊那市	10月18日	70	480	ND		11.5	ND				12.9
383	サンマの腸	岩手県・宮城県	10月18日	960	322	ND		4.5	ND				5.1
384	くりたけ	長野県池田町	10月26日	180	511	ND		6.8	ND				7.7
385	チンゲンサイ	静岡県	10月30日	240	802	ND		3.9	ND				4.4
386	ササミ水煮	国産	10月19日	100	1014	ND		4.9	ND				5.5
387	土壌	群馬県みどり市	10月24日	60	1338	89.7	16.9	5.6	50.8		10.1		10.6
388	土壌	群馬県みどり市	10月29日	60	1173	156.6	29.0	6.7	99.5		20.1		8.7
389	土壌	群馬県みどり市	10月30日	60	1296	272.3	49.7	6.9	167.1		30.8		13.3
390	土壌	群馬県みどり市	10月30日	60	602	499.5	91.2	11.3	308.0		56.9		20.8
391	土壌	群馬県みどり市	10月30日	60	658	331.9	60.9	9.6	199.3		37.2		18.0
392	落ち葉	群馬県前橋市	11月2日	60	217	1214.4	222.0	26.8	774.1		143.1		49.1
393	土壌	群馬県前橋市	11月2日	60	714	497.5	90.7	10.2	307.6		56.6		16.8
394	土壌	群馬県前橋市	11月6日	60	1066	307.7	56.2	7.0	189.2		34.9		12.2
395	土壌	群馬県前橋市	11月7日	60	782	1533.5	277.2	14.9	960.6		174.3		23.7
399	くり	長野県松本市	10月26日	60	678	ND		8.9	ND				10.2
400	玄米	福島県いわき市	10月25日	100	1015	ND		5.3	ND				5.8
401	助宗タラ	北海道	10月25日	120	998	ND		4.6	ND				5.2
402	こうじ	長野県松本市	10月25日	180	751	ND		4.8	ND				5.4

462	イナダ	(水場：岩手県)	11月15日	1025	90	ND		5.4	ND		6.0
463	そば粉	長野県安曇野市	11月21日	886	60	ND		7.1	ND		8.1
464	土壌	山梨県甲府市	11月21日	1226	60	ND		7.7	ND		8.3
465	ゴボウ	群馬県	11月19日	822	120	ND		5.5	ND		6.1
466	土壌	群馬県みどり市	11月22日	1050	60	284.2	52.0	7.9	177.5	33.8	9.7
467	土壌	群馬県みどり市	11月27日	1077	60	128.0	23.9	6.3	71.7	15.7	8.7
468	土壌	群馬県みどり市	11月27日	1046	60	211.6	38.9	7.3	135.0	25.2	14.1
469	土壌	群馬県みどり市	11月27日	674	60	378.0	69.3	10.0	226.2	42.0	16.8
470	土壌	群馬県みどり市	11月27日	723	60	183.0	34.1	7.9	106.0	20.4	14.9
471	落ち葉	長野県松本市	11月28日	273	660	ND		6.3	ND		7.2
472	柿	福島県会津若松市	11月20日	1043	120	ND		4.4	ND		4.9
473	灰	長野県諏訪郡	12月5日	310	900	67.7	12.5	4.2	11.7	6.1	6.3
474	干し柿	長野県松本市	12月10日	483	90	ND		10.2	ND		11.4
475	パブリカ	長野県	11月20日	623	150	ND		6.2	ND		7.1
476	ネギ	長野県	11月21日	771	180	ND		4.6	ND		5.2
477	灰	長野県松本市	11月22日	845	150	ND		5.3	ND		6.0
478	灰	長野県生坂村	12月3日	594	900	14.7	3.0	2.6	6.6	1.9	5.5
479	土壌	長野県東筑摩郡	11月27日	1499	60	ND		6.4	ND		6.9
480	ジャガイモ	長野県南箕輪村	11月26日	671	120	ND		6.6	ND		7.4
481	土壌	長野県信州新町	12月4日	1160	180	7.7	2.1	3.0	ND		4.6
482	土壌	千葉県柏市	12月4日	872	180	1267.5	228.7	7.5	788.5	142.6	12.0
483	かまぼこ	神奈川県小田原市	11月28日	999	90	ND		5.6	ND		6.2



NO. 60
常世の息吹

宮尾 彰

「乾反り葉（ひそりば）」という言葉があります。

「乾反る」は動詞で、「ひぞる」あるいは「ひそる」と読み、文字通り、かわいてそりかえるという意味です。

児童詩誌『きりん』（本誌第九十二号）の詩人・竹中郁に、「乾反り葉を揉みくだいたほどの音」と、最愛の妻が臨終に漏らした息を詠った一篇があります。

ロシアの詩人ワシーリー・ローザノフは、代表作である『ウエディニョンノエ（独り在る者）』で、魂の内から外へと紡ぎ出された言葉を、吹く風に樹の枝から剥がれ落ちた木の葉にたとえました。

これこそ、生命の消息に直に触れた文学の原点であり、自然から離れてしまう前の、人間本来の姿です。

小学校の後半、私は週末ごとに自宅から浅間山に向って約半時間自転車をこぎ、縄文時代の遺跡に通う考古学少年でした。青空の下、相棒と日がな一日野菜の苗が植え付けられた畝を、ひたすら獣のように這い回ったものです。

透き通った黒曜石の鎌や、縄目の付いた土器を発見した時の胸の高鳴りを、今もこの身に覚えています。

中学二年の夏休み、私は友人と井戸尻遺跡の見学旅行を計画しました。小海線の終点小淵沢駅で中央線に乗り換え、再び県境を越えた一つ目の駅が信濃境です。

この小さな駅の佇まいは、少年だった私の眼に、鮮やかに焼き付けられました。この駅から始まる径路が、やがてその後の人生に深い意味を持つことになろうとは、当時の私には窺い知れないことでしたけれど。

遺跡から出土した土器の写真が飾られた駅舎を出て線路に架かる鉄橋を渡ると、ゆるやかな登り坂になります。

道すがら、晩年唐木順三が蟄居した不期山房を見遣り、晴れた日ならば、山並み遙か見事な富士山を仰ぎます。

その著『光陰』には、この地から眺められた歴史と文化の運命が切切と綴られています。この秋私が再訪した折にも、縄文の昔から吹く風が想念を鎮めてくれました。

坂道は富士見高原に向って続きます。この先に、著者の筆で「一風變つたカトリックの神父さん」と描かれた人物の編んだ草庵が、ひっそりと守られています。

村人が古の昔から歩いた小さな路が、先祖伝来の田畑と墓道を縫いながら、今もアスファルトの道路の脇に隠れるように残っているのです。

打ち棄てられた土地に、譲り受けた廃材を使つて幾棟もの茅葺小屋が設えられてから、半世紀が経ちました。

集まり散じて人は替れど、縄文の昔から吹く風が生命の流れをおのづから運び続けている場所。

深い闇の中、木立に縁取られた夜空に零れる満天の星。朝まだき、田の畦を辿つて庵主が愛でた小泉にお参り。尽きることなく沸き出る水。キラキラと川面に映る陽光。樹々の葉が、その時を得て潔くはらはらと舞い落ちる姿。

帰途、青い空の彼方に正三角形の白い山を仰ぎ見た時、私は悟りました。悠々と土器を焼いて暮らし続けた人々は「フジサン」などと名指すことなく、その姿を自らの存在の延長として感じていたのに違いないと。

夜な夜な、月と星とを存分に眺め、温めあい、睦み合い、生命をつなぐことだけに専心した生活。

縄文土器に施された、豪快な内にも繊細な文様が、その魂を今に伝えていきます。

常世の息吹に身を浸して、私は現実の生活に戻りました。家に着く頃には、私自身の存在も、元通り抽象化されて。街には弥増しにイルミネーションが溢れ、携帯電話には商品と化した欲望が幾重にも貼り付けられ……

庵で私は、風を吸つてひとつに燃える火を見ていました。





世界の終焉セットには次のようなものがある。テント、寝袋、藁、コンパス、ナイフ、懐中電灯、なた、釣り道具、シャベル、双眼鏡、色々な衛生用品など。セットには、VIP用セットとエコノミー用セットのように、様々なバリエーションがある。販売者はユーモア精神から冗談のつもりで売り出したと言うが、買う側は必ずしもユー

モアで買う訳ではない。

世界の終焉セットには、次のような物も含まれている。家庭用の小さな石鹼、ほうき、魚の缶詰、ろうそく、マッチ、バック詰め穀類、ノートとペン等。

さてモスクワの若者たちはどうだろうか。彼らは世界の終焉を信じてはいない。まさにこの日を結婚式の日と名付けている。2012年12月21日世界の終焉の日を指定して、約500組の結婚届けが提出されている。これはモスクワでは冬の金曜日の普通の数字である。そして世界の終焉の翌日、12月22日の土曜日には700から800組の結婚届けが出された。これも12月の土曜日としては一般的な数である。

ところで読者の皆さんは、どんな形の「世界の終焉」も起こらなかったことをご存じだろう。なぜなら「グランド・ゼロ」最新号を手にとって、今、読んでいるのだから。せつかく終わらなかった世界ですから長生きをしてくださいね。お幸せに！

イリーナ・ニコラエワ（モスクワ事務局）



マスクワイペリ

この秋、2012年12月21日に世界が終わると多くのマスコミが話題にした。ある人は一笑に付したが、中には心配してこの日のための準備をする人もいた。

世界の終焉は、すぐに噂に惑わされる人々が住む小さな村々だけでなく、先進国の大都市でも信じられている。フランス、アメリカ、日本では2012年12月21日に人類は滅亡すると信じられている。ロシアでは、来るべき2012年12月21日に備えて、人々が缶詰を買い占め、家の地下に穀物を蓄えたりしているというニュースが連日放送されている。驚くべきことに、政府と国営のマスコミは国民のパニックを鎮めようとしなくて、ただ沈黙を守っているだけなのだ。

マヤ歴によると2012年12月21日に起こると言われる世界の終焉について言われ始めたのは、1990年代に、南アメリカのあるアメリカ人歴史学者のある冗談がきっかけだった。

人々は数世紀に渡って世界の終焉の日を『指定』してきたと言わなければならない。好んで『指定』してきた人たちは、たいていはある宗派の信徒だったり、占星術師や預言者だったり、聖書やノストラダムスの大予言を拡大解釈した人々である。この前の最後の審判の日は、2011年10月21日と予言された。予言したのはアメリカの伝道者ガロルド・キャンピング。この時ロシアでは、キリスト教のある宗派が、地下に掘られた洞窟に数日間避難した。人々は幼い子どもを含む家族を連れてそこに避難した。政府は、彼らが洞窟から出て日常生活に戻るようと、説得するのに苦労した。だが結局、何も起きなかった。まるで大型ハドロン衝突型加速器を打ち上げたのと同様に、地球を吸収してしまう「ブラックボックス」が発生するかのように大袈裟に心配されたが、ご承知のように杞憂であった。

しかしまた今、多くのマスコミが、世界の終焉が近づいていると人を脅かすような記事を書き続けている。どんなことが起こるのか、どうすればいいのか、生き延びるために準備すべきことは何なのかを紹介されている。店には世界の終焉を生き延びるためのグッズが売られ、たくさんの人が買い漁っている。

ベイルーシの食卓

ドルマが元祖？ ガルブツィ（ロールキャベツ）

イラクから来たフダさんが作るドルマはとても美味しい。イラクでは、大なべいっばいにドルマを作り、休日には親戚で集まって食べる。フダさんは、ドルマはトルコ料理が元祖です、と言っていた。ピクニックに、家族パーティに、野菜にひき肉やお米を詰めて、トマト味で煮たドルマは欠かせない。

中央アジアのコーカサス地方グルジアは、同じくアラブ系の民族だ。この地から、キャベツのドルマが北上し、ロシアのロールキャベツ・ガルブツィへと変身していった、と言われている。

<材料>

キャベツ 小1個・合挽きミンチ 250g・玉ねぎ 1個・米 1/2カップ
塩、コショウ、油 少々

汁：トマトピューレ 1カップ・キャベツの茹で汁 2カップ・ローリエ 1枚

塩 小さじ1・コショウ 少々・砂糖 小さじ1

香草・生クリームはお好みで

<作り方>

1. キャベツを茹で、芯の部分は麺棒でたたか、^そ削ぐ。
2. 玉ねぎをみじん切りにする。
3. 米を湯で洗う。
4. ボールにミンチ・玉ねぎ・米を入れ、塩・コショウをして、よく練る。
5. キャベツに4.の具（大きじ2～3）を入れ、包む。
6. フライパンに油を敷き、5.を軽く焼く。
7. 鍋にキャベツを並べ、汁の材料を全部入れて煮込む。
8. 汁が半量くらいになるまで、弱火で煮る。
9. 器に盛って、お好みで香草、生クリームで飾る。

「福島原発震災の被災者支援募金」のお願い

JCF では被災地支援のためのキャンペーンを行っております。
2012 年度は 12 月 10 日現在で、10,995,163 円のご寄付が集まりました。たくさんの応援をありがとうございます。

頂いたご寄付は、引き続き、ガラスバッジプロジェクト諸経費、線量計貸し出しプロジェクト諸経費、被災地や避難された子ども達の健康診断プロジェクト、食品放射能検査経費等に充てて参ります。

以下の郵便振替口座に「震災支援」とご記入の上、応援をお願いします。

口座番号：00560-5-43020

口座名：日本チェルノブイリ連帯基金

連絡欄：震災支援

インターネット銀行および他金融機関からの振込用口座番号

059（ゼロゴキユウ）店（059）

当座 0043020

◎クレジット決済システムの「アナザレーン株式会社」様のご協力で、JCF のホームページ (<http://jcf.ne.jp/>) から、カード決済によるご寄付、会費のご送金が可能になりました。毎月々定額のご寄付送金も可能になりましたので、ご利用下さい。なおウェブからのクレジット送金の場合事務局にはメールアドレス情報のみが届きます。お手数ですが、お名前、ご住所等の情報を asama@jcf.ne.jp までお送り下さい。会費・ご寄付データベースに登録して「ランドゼロ」をお送りします。

振替用紙のメッセージから



- ◎原発周辺地域のみなさまのお力になって下さい。
- ◎Teamめとばの第三者機関としての発展を心から祈念しています。貴重なデータをありがとうございます。やっと出発点に戻った感じを受けています。
- ◎ささやかですが、応援させていただきます。
- ◎福島のみなさんが笑顔で過ごせる日が一日も早く訪れますように……。
- ◎缶バッジ販売による寄付をお送りします。
- ◎保育園のバザーでのカンパも足しました。特に子ども達のために役立ちますように。
- ◎聖黎クリストファー大学同窓会の理事の一人（73歳）です。10月、中川小中の同窓会があり、皆様に呼びかけ気持をお届けします。
- ◎「ねこ」の記事に納得の『木曾住ま居』です。みなさんにねこを普及させたい！
- ◎福島の早期回復を祈ります。
- ◎孫達の世の中が幸せでありますように。
- ◎講演会のカンパ金です。
- ◎この間、昼休みの図書館で、高校生たちとアレクシエービッチさんの『チエルノブイリの祈り』を読みました。思いのほかたくさん的高校生が集まってくれて、びっくりしました。若い人の感性はいいですね。
- ◎原発被災者支援を貴基金に託せることがうれしいです。何もできず心がゆれていきますので。
- ◎お寒くなりました。どうぞお気を付けて。私は落ち葉のつもるままに老々介護の生活です。
- ◎寒い冬がやって来ます。少しでも温かい物を被災者にお願ひします。
- ◎福島再生祈ります。
- ◎心ばかりですが、お役に立てて頂ければ幸いです。
- ◎大切な命を護る一助にしてください



- い。
- ◎心ばかりですがお役に立たせてください。
- ◎風評被害はまだ続いています。会津は元気で頑張っています。NHK大河ドラマ「八重の桜」をみて会津に遊びにきて下さい。
- ◎いつもグランドゼロをお送り頂きありがとうございます。
- ◎何もできませんが、少しでもお役にたてますように。宮尾彰さんの連載『土に還る時間』、心に残りました。
- ◎2年に1度の第10回「命輝け第九コンサート」をようやく終えました。原発労働者の方々の健康もとても心配です。ささやかですが、心を寄せ続けたと思います。
- ◎秋に福島へ行ってきました。他人ごとではないと、改めて痛感しました。
- ◎夫が病を与えられて入院中のため、ゆとりがなくなり少額ですが……
- ◎いつも優しくして下さる東北の皆さま

んに、はずかしくないように生きなければと思うのです。なんとか良い国にしなければ……。



Здра в ст вуйт е!

感染症対策チーム 信州大学で研修



左からリカ医師、加藤医師、ペイマン医師、マハナス看護師、持田さん、後列坂下医師

イラク、クルド自治区アルビルの子ナナカリ病院から、小児科医師のペイマン医師、看護師のマハナスさん、事務部長のオマルさんが、日本の感染症対策を学ぶためにやってきた。

JIMNET（日本イラク医療支援ネットワーク）は、白血病治療には欠かせない感染症対策に取り組んできた。院内清掃・手洗い・汚染物資の取り扱いなど、看護師だけでできるものではないので、病院のマネジャー、医師、看護師を日本に招聘した。

白血病治療は、チームで子ども達を守ってやらなければならぬ。また、日本の方法を押し付けるのでは意味がなく、現地の担当者が日本の方法を視察して、ナナカリに戻ってからどれだけ改善しているかが鍵になる。

そのために、JIMNET理事の井下医師やスタッフの持田さんが、ミーティングでナナカリとの違いを認識してもらい、更なるブラッシュアップへ

こんにちは！



オマル事務部長、JIM-NET 佐藤さん、鎌田理事長、マハナス看護師、ペイマン医師

の方向を探るのだが、なかなか難しかったようだ。信州大学のような高度先端医療の病院や諏訪中央病院、県立子ども病院の設備は、ナナカリとは比べようもなく整っており、連日のように「私達の病院には、何もありません」と言われると、研修の目的そのものを見失いがちになってしまう。

しかし、ハードスケジュールをこなし、リカ先生のお母さんが準備してくださったイラク料理を食べながら笑顔で話されている様子をみると、やはり、日本での研修は第一歩なのだと思う。

感染症対策は非常に基礎的な部分である。また、機材によらなくても改善していくことができるので、今後のフォローアップがより重要だ。

JIM-NETのスタッフの持田さんは彼らを送り出した5日後に、また、アルビルに飛んだ。

神谷さだ子（事務局長）

低線量放射線被曝

今中哲二



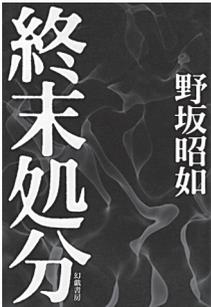
<叢書 震災と社会>
 低線量放射線被曝
 ―チェルノブイリから福島へ
 著者：今中哲二
 発行：岩波書店
 定価：1800 円＋税

東京電力福島第一原発の事故により放出された放射性物質の量は膨大である。もはやわれわれは、どんなに少なく見積もっても今後数十年以上この新たに付加された放射能と無縁で生きることができない。広島・長崎の原爆による降下放射線量の評価、そしてチェルノブイリの放射能汚染の実態をずっと見続けてきた著者が、「福島後」をどう生きるのか、事故分析を踏まえながら語る。(本書カバーより)

Book

終末処分

野坂昭如



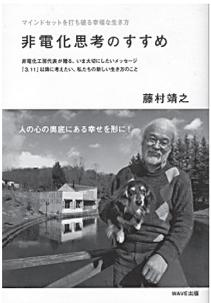
終末処分
 著者：野坂昭如
 発行：幻戯書房
 定価：1900 円＋税

原子カラムラ黎明期のエリートが、その「平和利用」に疑問を抱き……。政・官・財界の圧力、これに搦め捕られていく学界の「信仰」、マスコミという「幻想」。フクシマの「現実」を、スリーマイル、チェルノブイリよりも早く、丹念な取材で描いた34年前の長編問題作、初の単行本化。本書のための書き下ろし「大量生産、大量消費に終わりが来る時」併録。(本書帯より)

Book

非電化思考のすすめ

藤村靖之



非電化思考のすすめ
 ―マインドセットを打ち破る幸福な生き方
 著者：藤村靖之
 発行：WAVE 出版
 定価：1400 円＋税

非電化工房代表が贈る、いま大切にしたいメッセージ。「3・11以降」に考えたい、電気のこと、エネルギーのこと、そして、私たちの新しい生き方のこと。(本書カバーより)

Book

東北の震災と想像力

鷺田清一、赤坂憲雄



東北の震災と想像力
一われわれは何を負わされたのか
著者：鷺田清一、赤坂憲雄
発行：講談社
定価：1600 円＋税

Book

東北を掘り東北学を立ち上げた民俗学者と、阪神大震災体験をきっかけに臨床哲学を切り拓いてきた哲学者。言葉を探り、想像するちからの可能性を信じる2人の思索者の真摯なる対話。震災以降に発表された両著者のエッセイ11篇も併せて収録。(本書帯より)

あるロマ家族の遍歴

ミシヨ・ニコリッチ



あるロマ家族の遍歴
一生生まれながらのさすらい人
著者：ミシヨ・ニコリッチ
訳者：金子マーティン
発行：現代書館
定価：2300 円＋税

Book

本書の著者、ミシヨ・ニコリッチ(1941〜2007年)は、第二次世界大戦勃発直後にユーゴスラヴィアに生まれた。ナチス占領、冷戦そして現代まで……。家族でジプシー音楽のバンドを結成して活躍したミシヨは、その家族史と自分史を赤裸々に告白している。

ライヴ・イン・コンサート

サッチャル・ジャズ・アンサンブル



「ライヴ・イン・コンサート」
(2枚組 CD)
サッチャル・ジャズ・アンサンブル
発売：エル・スール・レコーズ・インポート
定価：3675 円(税込)

CD

ジャズやボサノヴァなどの有名曲をインドゥパキスタンの古典音楽／映画音楽のアレンジで聴かせた前作『サッチャル・ジャズ』のコンセプトを踏襲しつつ、即興プレイを披露し発展させた演奏が楽しめる2枚組ライブ盤。2012年4月、イギリス・ロンドンでの録音。

Information

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）活動紹介

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）は1991年1月に設立されました。1986年4月26日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故の放射能被災地へ、主に医療を中心として支援活動を展開しています。

支援開始当初のベラルーシは、深刻な経済状況で、白血病など病気の子ども達は、十分に治療を受けることができませんでした。衛生管理もできなかったために、多くの子ども達は感染症などで亡くなっていました。JCFは、現地の医師らと話し合いながらプロジェクトを組み、信州大学などの医療従事者と共に着実な支援活動を続けてきました。

そして2004年、活動の支援先はイラクへも広がられました。イラクでは湾岸戦争以後に白血病が急増しています。長期にわたった経済制裁後、新たに起きた戦争で極端に物資が不足、子ども達の治療もままならず、多くのいのちが失われています。



2011年3月11日の東日本大震災、そして福島第一原発の事故により、東北地方のみならず広大な範囲で放射線災禍を受けました。JCFは事故直後から緊急医療支援、外部被曝線量測定、子ども達の診察プロジェクトを行ってきました。今後も子どもの検診や環境線量測定、食品汚染測定など、子ども達を被曝から守るための活動を続けます。

◆ JCF 会費振込口座

正会員年会費（1口）	10,000円
賛助会員年会費（1口）	3,000円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

◆ JCF / イラク支援振込口座

血液成分分析機購入、医師招聘研修、薬品購入

郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	JCF / イラク支援



第 94 号

発行日 2012年12月26日

発行人 鎌田 實

発行所

日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原 浩

イラスト 榎野ひかり

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

横内香苗

中澤啓子

協力 寺島仁美

JIM-NET

風樹 光

坪根智美

印刷 電算印刷

■編集後記

前号の宮尾彰さんの随筆「土に還る時間」は読者の方からの反響も大きく、読む度に考えさせられる。震災の津波でさらわれ海を漂うたくさんの方の震災漂流物。特にプラスチックは漂う間に細かくなり、鳥や魚が食べて私達の食物連鎖に入り込む恐れがあるという。土や水に還ることのない「便利」な物を断念する生活。私たちはそれを選択する勇氣を持つ時ではないだろうか。(布山)

販売物紹介

Book

- ・「チェルノブイリからの伝言」
JCF 編 (オフィスエム) 1200 円

CD

- ・「小室等／ベラルーシの少女」
(8cm シングル盤) 1000 円
- ◆がんばらないレーベルCD
- ・「ふくしま・うた語り」
1500 円
- ・「ヴラダン・コチ／ふるさと」
2500 円
- ・「坂田明／ひまわり」
2500 円

ドクターかまちゃんの寒天ゼリー

1000 円

*販売物の詳細は事務局にお問い合わせ下さい。



●特定非営利活動法人

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

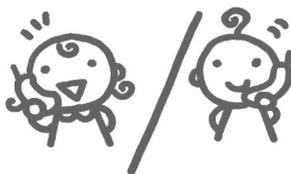
〒 390-0303

長野県松本市浅間温泉 2-12-12

TEL 0263-46-4218 FAX 0263-46-6229

E-mail asama@jcf.ne.jp

Website http://jcf.ne.jp





チヨコの季節

アヤ・ハイサム

日本でおいしい、イラクでおいしい

今回のチヨコ募金には

バグダッドに住んでいたアヤ・ハイサムの絵を
ふんだんに使いました。

アヤは2010年9月に亡くなりましたが、

素晴らしい絵をたくさん描き残してくれました。
享年9歳。